

地域・社会との共生

J-POWERグループは、日本全国また海外にも発電・送变电設備を有する電気事業者として、地域・社会の皆さまとの共生のもとで事業を展開しています。今後とも、地域・社会との発展に向け、J-POWERグループ企業行動規範に掲げる「コミュニケーションの確保」と「社会への貢献」を柱に取り組んでいきます。

コミュニケーションの確保

J-POWERグループは、様々な地域・社会の多くのステークホルダーの皆さまとのコミュニケーションを確保するため、公正かつ透明な広報活動と情報開示に努めています。広報活動については、地域の皆さま、株主・投資家の皆さま、また、社会全体とのかかわりなど、ステークホルダーの方々の特性や関係性を踏まえたきめ細やかな対応を心がけるとともに、双方向での対話の重要性に鑑み、ステークホルダー・ダイアログの取り組みを進めています。情報開示については、広報活動を通じた情報発信やお問い合わせへの対応とともに、情報開示委員会によるIR情報の開示を行っています。

▶ 広報活動・IR活動

▶ 広報活動

広報活動については、地域の皆さまをはじめ広くJ-POWERのことをよりよく知っていただくことを目的に、事業活動全般を通じて企業情報を的確かつタイムリーに発信すること、J-POWERに関するお問い合わせなどに関しては、誠実かつ丁寧に対応することを基本に取り組んでいます。

報道面においてはプレスリリースやお知らせなどによる適時・適切な情報発信に努め、広告面においてはテレビCMや雑誌広告などを利用して広く私たちの事業についてご理解をいただけるよう努めています。

また、事業所単位での発電所見学会などの催事によるふれあいを通じ、安心して事業活動を見守っていただけるよう取り組んでいます。

これら各種のコミュニケーション活動については、ホームページ等による双方向のコミュニケーションに努めるほか、

J-POWERホームページ



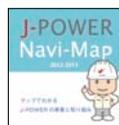
電子メール、電話による「お問い合わせ」窓口を設置し、皆さまとの双方向のコミュニケーションに努めています。

ダムカード



J-POWERグループのダムをカード形式にして、わかりやすく紹介しています。

Navi-Map



J-POWERの事業内容を親しみやすいキャラクターを用いて紹介しています。

J-POWER CARD



子ども向けにJ-POWERの取り組みなどを紹介しています。

Navi-Mapやダムカードなどのコミュニケーションツールの充実と、わかりやすく親しみのある広報活動に取り組んでいます。

▶ 投資家・個人株主向けIR活動

機関投資家の皆さまに対しては、経営計画や決算に関する説明会を年2回程度開催するとともに、国内外を問わずミーティングを随時積極的に実施しています。また、個人投資家の皆さまに対しても、年に数回、会社説明会を開催し、経営層を含めたJ-POWERのメンバーと直接対話いただく機会を設けています。

個人株主の皆さまには、株主通信を年2回発行するほか、発電所等施設見学会を年2回実施するなど、経営状況や企業概況について積極的な情報開示に努めています。

▶ 情報開示

情報開示については、広報活動・IR活動においてプレスリリース、WEBサイトでのお知らせ等により、ステークホルダーの皆さまへの適時・適切な情報発信に努めています。

特に、投資家の皆さまの投資判断に重要な影響を与えるJ-POWERグループの業務、運営または業績等に関する情報については、金融商品取引法や有価証券上場規程等の関連法令・規程を遵守するとともに、社内規程「IR情報開示規程」を制定し、積極的で公正かつ透明な情報開示を行うことを基本方針としています。

また、社長を委員長とした「情報開示委員会」を設置し、市場から評価され社会から信頼されることを目指して、IR情報開示体制の検討や整備、開示すべき情報の検討・判断を行っています。

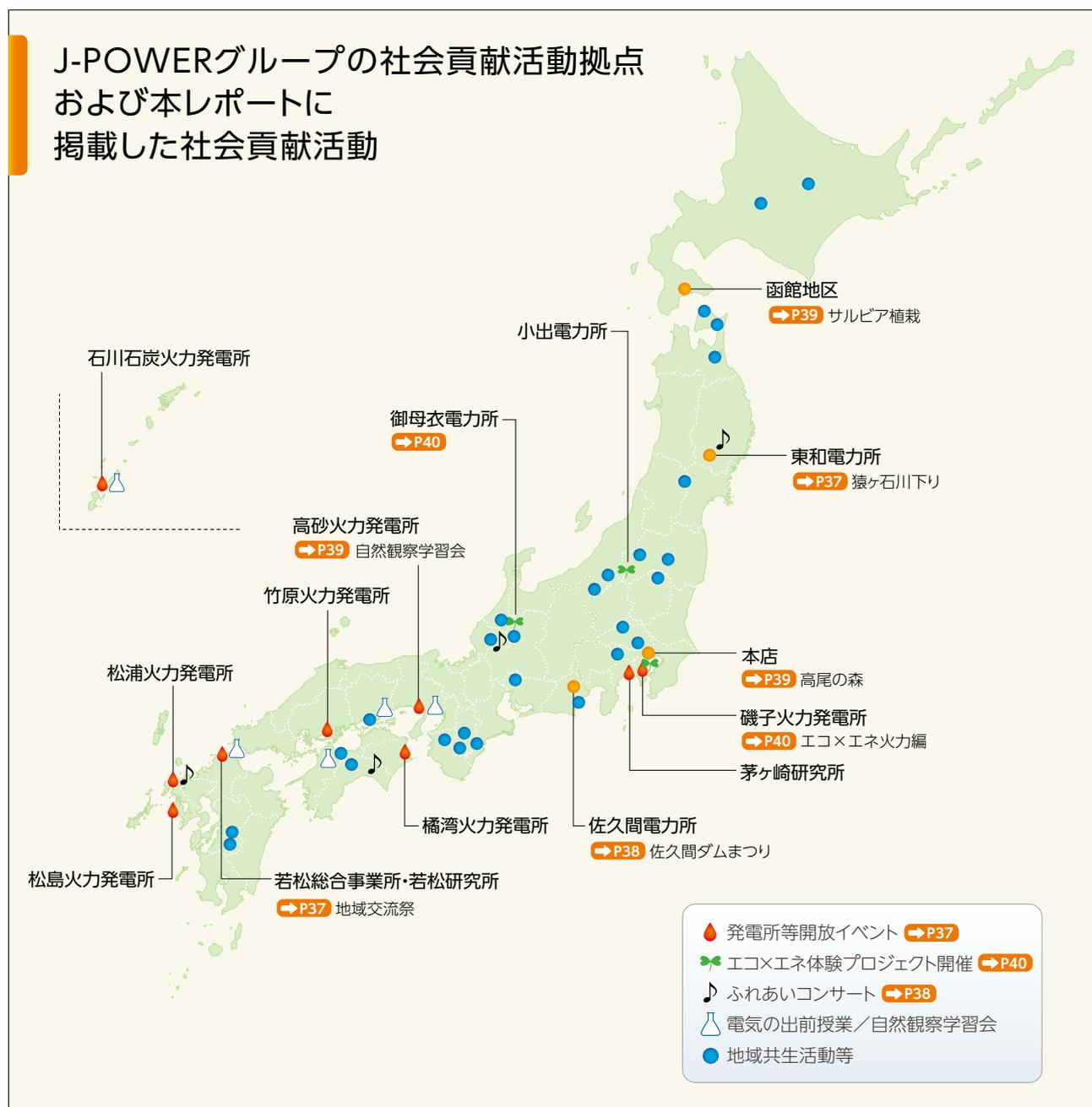
地域・社会への貢献

J-POWERグループ「社会貢献活動」の考え方

J-POWERグループは、「環境との調和をはかり、地域の信頼に生きる」「利益を成長の源泉とし、その成果を社会と共に分かち合う」との企業理念のもと、社会の一員として、社会の健全な発展、持続可能な発展を願い、息長く社会貢献活動に取り組みます。

J-POWERグループは「地域・社会とともに」「エネルギーと環境の共生を目指して」の2つを主たる活動テーマに、地域の皆さま、エネルギーと環境の共生を目指す様々な人々と話しあい、互いに知恵を出し学びあうことを大切にして、着実に活動に取り組むとともに、従業員が取り組むボランティア活動を支援します。

J-POWERグループの社会貢献活動拠点 および本レポートに掲載した社会貢献活動



地域・社会とともに

J-POWERグループの企業活動は、発電所などの地域の人々によって支えられています。従業員一人ひとりがそれぞれの地域においてよき住民であるように、各地の事業所もまた「よき企業市民」として地域・社会に役立つ存在でありたいと思います。地域の人々から信頼され、親しまれる活動を通じて、地域とともに生き、社会とともに成長することを目指します。

岩手県

猿ヶ石川下りアドベンチャーレース

岩手県花巻市の東和電力所下流の猿ヶ石川では、ゴムボートで川を下りタイムを競う「猿ヶ石川下りアドベンチャーレース」が毎年行われており、同電力所も実行委員会のメンバーとなっています。発電使用水量を調節することで協力するほか、所員も複数のボートで出艇し、地域の方と交流しています。橋の上から寄せられるたくさんの応援の声に応え、選手たちは水しぶきで濡れながらも一生懸命にオールをこぎ、ゴールを目指しました。



ボートに乗り込む参加者(東和電力所/岩手県)

VOICE 地域の皆さまとの交流のきっかけづくりに

おおたき やすひろ
(株)JPハイテック 東和事業所 **大滝 泰広**

今回私は所内で大会の参加者を募ったり、事前準備の調整や当日のスケジュールの作成などを担当しました。今、胆沢第一発電所の工事が進んでおり、大会の事前準備をするにあたり、工事に関する調整や参加者の日程調整が大変でした。事前の準備は大変でしたが、大会に参加することで所員同士や地域の皆さまとの交流のきっかけになったと思います。非常によい経験ができました。一度参加してみるとわかるのですが、この川下りは本当に楽しいもので、来年も是非参加したいと思います。



発電所等開放イベント

J-POWERグループでは、日頃お世話になっている発電所等の地域の皆さまへ感謝を表すため、全国の様々な機関において、発電所等へお越しいただける機会を設けています。特に開放イベントのプログラムでは、実際に電気のできる現場をご覧いただけるよう、所員の説明による設備見学会を開催しており、「もっと地域の方々にJ-POWERグループの従業員のことも知っていただきたい」との気持ちを含めて、お客さまをご案内しています。

また、若松総合事業所の開放イベントのように、地域の皆さまとの協働による地域交流祭として実施している機関もあります。



【地域交流祭 いきいき若松】(若松総合事業所/福岡県)

【発電所等開放イベント】

松浦、松島、石川、高砂、磯子、橘湾、竹原、若松、茅ヶ崎

【施設見学会】

北本、西東京、沼原、下郷、東和、佐久間、九頭竜、静岡送電、御母衣、北山川、高知 等多数で実施しています。

VOICE 継続した活動で、地域との絆を深めていきたい

なかしま ぶんや
J-POWER 若松総合事業所 所長 **中嶋 文彌**

若松総合事業所の開放イベントは、「地域交流祭 いきいき若松」と命名しており、大人の方だけではなく、子どもたちにも身近に電気を感じてもらい、電気を通して科学にも興味を持ってもらえるような機会をつくりたいと思って開催しています。開放イベント以外にも、屋上緑化で田んぼを作り、稲刈りを地元小学生に体験してもらっています。また、当所施設は北九州次世代エネルギーパークの見学コースにも組み込まれており、地域の皆さまは勿論広く県内外、海外からも多数見学いただいています。



佐久間ダムまつり

「佐久間ダムまつり」は、半世紀以上も続く伝統あるお祭りです。開催日の10月最終日曜日には、地元だけでなく遠く太平洋側の都市部からも、ダムとともにある地域の歴史を懐かしむ方々が大勢駆けつけます。最大の見せ場となるのは、ダムの守護神が繁栄と慰霊の祈りをささげる「龍神の舞」。J-POWER佐久間電力所は、自らが出店を開いて接客したり、ダムの内部を案内する「探検ツアー」を行ったりして、お祭りを盛り上げます。



佐久間ダムの守護神 龍神(佐久間電力所/静岡県)

VOICE

半世紀を超す交流が続く地域の発展に貢献を

J-POWER 佐久間電力所 所長(現 (株)JPハイテック 西日本カンパニー長代理) **木下 富士春**

当初は佐久間ダム建設工事の殉職者慰霊と佐久間ダムの繁栄を祈願し始められた行事ですが、その後は地域の方々やダムを愛する皆さまに支えられて「佐久間ダムまつり」に発展し、2012年の開催で55回目を数えました。佐久間ダムの建設はJ-POWERが創業期から取り組んだ事業のひとつです。それだけに地域の皆さまとの交流が長く親密で、今後も地域社会に根差す企業として地域の発展に貢献していきます。



ふれあいコンサート

ふれあいコンサートは、1992年より、当社の創立40周年記念事業および発電所立地地域の皆さまへの日頃の感謝をお伝えする機会として始まりました。以来20年、集客型の「ふれあいコンサート」は102回を数えます。その後、J-POWERの民営化を機に始めた学校や福祉施設など、より身近な場所で演奏者自ら出向いて演奏をする訪問型の「ふれあいミニコンサート」もバリエーションに加え、継続して開催しています。

2012年は、北は岩手県、南は長崎県までと、訪問



ふれあいミニコンサート(高知電力所/高知県)

型のミニコンサートを開催しました。

引き続き、2013年も発電所立地地域の皆さまへ、日頃の感謝を込めて素敵な演奏をお届けします。

VOICE

「でんぱつ」で伝わる地域との長いお付き合い

ヘルシーケアなはり 施設長 **吉本 智子** 様

ふれあいミニコンサートに応募したきっかけは、行事を担当するスタッフがたまたま見つけてきたことでした。普段聞いたことのある音楽を演奏していただき、とても感謝しています。普段は、「生」の音楽に触れる機会が少ないので、とても貴重な機会でした。この地域の方には「でんぱつ」と聞いただけで昔を懐かしく思う方もたくさんいます。長きにわたってこの地域とともに過ごしてきましたし、これからも是非続けてほしいと思います。



エネルギーと環境の共生を目指して

人々が心豊かに暮らしていくためには、暮らしを支えるエネルギーとよりよい環境が両方とも必要です。これまでの事業活動を通じて培ってきた環境に関する知見を活かして、エネルギーと環境の共生を目指す様々な人々と協働し、エネルギーと環境を大切に作る心と技術を育てる活動を通じて、日本と世界の持続可能な発展に貢献します。

北海道・東京都

森林や身近な自然環境の保全

J-POWERグループでは、各地域での身近な環境整備や里山整備活動に参加しています。

北海道のJ-POWERグループ函館地区では、国道にサルビアの苗を地元の峠下地区の方々とともに植栽するなど、身近な自然環境の保全にも取り組んでいます。

また、J-POWERグループ本店の従業員有志で結成した「J-POWERフォレストクラブ」では、「高尾の森づくりの会」にボランティア参加しています。高尾山の北側の裏高尾小下沢地区で、荒れた森の手入れや植林作業を行うこの活動は10年以上続けられ、200人を超す個人と20社近い団体・法人が協力しています。J-POWERグループ従業員にとっては、森林保全は水力発電を行ううえでも極めて重要であることを身をもって体験する好機となっています。



サルビアの植栽の様子(函館地区/北海道)



植林作業の様子(裏高尾小下沢地区/東京都)

兵庫県

「電気の教室」や「自然観察学習会」の開催

J-POWERグループでは、各地域の小学校を対象とした、電気の出前授業や設備見学会を実施しています。

高砂火力発電所では、兵庫県高砂市が実施する小・中学生向け環境学習「エコ教室サポートガイド」事業に参加しています。実験を通じてエネルギー全般の知識を深める「自然エネルギーを利用した発電体験学習」、土の保水性実験や植物観察を行う「自然観察学習会」という2種類の活動を実施しており、所員自らも自然観察指導員☑の資格を取って、子どもたちが学校の外に出て五感を使って体験し学習できる機会づくりに貢献しています。そのほかにも、各地の発電所等において、設備の特性や特徴に応じて、内容を工夫した電気の教室等を開催しています。



自然観察学習会の様子(高砂火力発電所/兵庫県)

VOICE 高砂「自然観察学習会」に参加して

伊保小学校 3年1組担任 もりもと れいこ 森本 玲子 様

自然体験というのはやはり教室の中で勉強するのではなく、現地に出向き実際に体験しながら学習できるのでとてもよいことだと思います。また、J-POWERグループの従業員の方より、電気について専門的な話もたくさん聞かせていただくことができ、ありがとうございます。子どもたちも学校の外に出てきて勉強することで、学習の雰囲気とは違い、実際に触れたり見たりと五感を使った体験をすることができました。



Dictionary 自然観察指導員：
地域に根差した自然観察会を開き、自然を自ら守り、自然を守る仲間をつくるボランティアリーダー。

Close Up 2 エコ×エネ体験プロジェクト

人々の心豊かな暮らしは、エネルギーと自然環境に支えられています。限りあるエネルギー資源と自然の恵みを有効に活用し、社会が持続可能な発展を遂げるためには、エネルギーと自然環境を相反する存在ではなく“つながり”として捉え、どちらも大切にすると技術を育てることが必要です。

J-POWERは、持続可能な社会を目指す方々と協働して「エコ×エネ体験プロジェクト」を開催しており、2007年より「水力編ツアー」を、2012年より「火力編ツアー」を開催しています。

エコ×エネ体験ツアー 実施回数

| | 年度 | 2006 | 2007 | 2008 | 2009 | 2010 | 2011 | 2012 | 合計 |
|--------|----|------|------|------|------|------|------|------|-----|
| 奥只見小学生 | 回数 | | 2 | 4 | 3 | 2 | 1 | 2 | 14 |
| | 人数 | | 53 | 86 | 74 | 56 | 18 | 54 | 341 |
| 奥只見大学生 | 回数 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 7 |
| | 人数 | 12 | 15 | 13 | 16 | 29 | 17 | 24 | 126 |
| 御母衣小学生 | 回数 | | | | | 2 | 2 | 2 | 6 |
| | 人数 | | | | | 58 | 60 | 58 | 176 |
| 合計 | 回数 | 1 | 3 | 5 | 4 | 5 | 4 | 5 | 27 |
| | 人数 | 12 | 68 | 99 | 90 | 143 | 95 | 136 | 643 |

※プロジェクト実施に先立ち、2006年に大学生を対象としたデモツアーを開催しました。

エコ×エネ体験プロジェクト 火力編 【磯子火力大学生ツアー】

火力編ツアーでは、身近に目にする事のなくなった石炭の特性を「石炭生焚き実験」で確かめたり、国内で初めて湿式脱硫装置を導入し、地元横浜市と「公害防止協定」※を締結した、J-POWERのDNAが、現在の磯子火力発電所にどのように継承されているのか、参加者の皆さんに「石炭」「水」「空気」の3コースに分かれて、実際の現場を体感し、様々な環境対策設備等を楽しみながら取材していただく構成としました。

「毎日の暮らしや産業を支える電力が、人体や健康を害するものであってはならない」。旧磯子火力の建設当時から受け継がれた思いとそれを実現する技術の粋を、是非、次代を担う大学生の皆さんに感じとっていただきたいと思ひます。

今後は、多くの反響をふまえて、プログラムの品質向上を図るとともに、中高校生対象のプログラムも検討していくこととしています。



石炭生焚き燃焼実験の様子
(エコ×エネ体験プロジェクト 火力編)

※後日「横浜方式」と呼ばれる公害防止行政の先駆けとなりました。

VOICE 「火力編」参加者の声

- 石炭火力は環境に悪いと思っていましたが、磯子火力発電所を見学して、様々な設備によって、とてもクリーンになっていることに驚き、イメージが一新されました。(大学3年・女性)
- 排気ガスの取り除き方など教科書では知っていたことが、実際に設備を見ることで、一層理解が深まりました。大学3年からの専攻の選択に際して、今回の経験を活かしていきたいと思ひます。(大学2年・男性)
- 現場の方たちが非常に地道な努力をして、クリーンエネルギーを作り続けていることがわかり、強い感謝の念を感じました。(大学1年・女性)



参加した学生の皆さま(エコ×エネ体験プロジェクト 火力編)

エコ×エネ・カフェ

ゲストから提供される話題をきっかけに、気軽かつ真面目に、我が事としてエコロジーとエネルギーを考える新しい学びの場です。対話によって、お互いから学び合うことを通じて「エコ×エネ」と人々の暮らしのつながりに気づき、学びを深めていきます。

話し合いを通じて、お互いに学びを深められる場として、参加者の皆さまには好評いただいております、2013年1月に通算12回を数えました。

今後とも、ゲストや実施時期についてより一層、参加者の皆さまの要望にお応えできるよう取り組んでいきます。

WEB 環境goo
<http://eco.goo.ne.jp/education/j-power/ecoenecafe/>

※過去の掲載内容は、上記のURLよりご覧になれます。

より広く社会のために

J-POWERグループが展開する「地域・社会との共生」に向けた取り組みは、被災地や次世代の皆さまなどより多くの皆さまのため、また、事業展開とともに世界へと、さらなる広がりをみせています。

▶ ボランティア活動の促進・支援

▶ 切手カウントボランティア活動

J-POWERグループでは、5年ほど前から、特定非営利活動法人ハンガー・フリー・ワールド(HFW)の「切手カウントボランティア」に協力しています。

業務終了後の空いた時間を使ってできることと、切手を金額別に紙に貼りつける手軽さが参加者にも好評です。作業にはグループ各社の従業員も参加しますので、従業員間の交流が深まっています。

2011年からは、J-POWER本店だけでなく、グループ会社でも開催しており、新たに参加する従業員も増えていきます。2012年からは、新入社員研修の終業後に開催したことで、新入社員間や新入社員と先輩社員との交流の場にもなっています。



切手カウントボランティア(東京)

こうした活動を通じて、従業員のボランティアマインドの醸成ができればと考えています。

WEB HFW

<http://www.hungerfree.net/>

▶ コンポストを活用した被災地支援活動

J-POWERグループでは、「『地域共生』の考え方をベースとしたJ-POWERらしい支援活動を進めたい」という思いから、NPO法人「遠野エコネット」との協働で、(株)ジェイパックの高倉業務推進役が考案した「高倉式コンポスト

技術」を活用した被災地支援を行っています。

コンポストとは家庭で出る生ゴミを分解して堆肥にするもので、特に「高倉式コンポスト」は国内外で高い評価を受けています。岩手県の大船渡市と大槌町、釜石市の3カ所で展開し、コミュニティ形成が課題とされる仮設住宅における入居者同士のコミュニケーションツールとしての役割も果たしています。



岩手県大槌町での講習会の様子

▶ 次世代への支援

▶ インターンシップの実施

J-POWER、(株)JPハイテック、(株)ジェイパックのグループ3社は合同で、大学院・大学・高等専門学校の実験系学生を対象に、日本の電力安定供給に貢献するJ-POWERの発電所等での業務の一部を経験することにより、学習成果の確認、学習意欲の向上、さらには今後の職業選択の一助となることを目的としてインターンシップ(夏期実習)を実施しています。

2012年度は、全国各地から37名の学生が参加し、電力設備の保守・運転に関する実習にチャレンジしました。



インターンシップ学習風景

「ラオスー日本友好の森」づくりに参加!

2012年6月25日、ラオス国において第2回「ラオスー日本友好の森」植樹祭が開催され、日本とラオスから計110名が参加しました。私は社内のボランティア休暇制度を活用し、2011年の第1回に続き参加しました。

2011年の国際森林年の一環として、国土緑化推進機構の呼びかけで高尾の森づくりの会が海外植林事業に協力することとなり、ラオス国アグロフォレストリートレーニングセンターとの協定で両国友好の森づくり事業を立ち上げました。当日は、地元中高生、住民との協働により、もともと自生していたビルマカリン、チーク等13種1000本を植栽することができました。

植栽後は「森林の働きと日本の森づくり」と題し講座を行い、参加した中高生からは「森や自然の大切さが学べて大変よかった」との感想が寄せられました。

J-POWER 立地・環境部 立地室 ぼぼ 馬場 隆博



森づくり講座

▶ 世界に広がる生ゴミコンポスト化技術

(株)ジェイペックは2004年から北九州市および(財)北九州国際技術協力協会(KITA)の依頼を受け、インドネシア国スラバヤ市の逼迫するゴミ問題を解決するため、生ゴミコンポスト化技術協力を実施しました。この技術は現地の人々が容易に継続して取り組めるように体系化されており、ゴミ処分量30%以上の削減や衛生環境の向上などの成果を得るとともに、活動時の現地の方々の笑顔も印象的です。このような現地化できる技術が評価され、現在、JICAおよび(財)地球環境戦略研究機関(IGES)とも連携を図り、発展途上国を中心に大きな広がりをみせています。

す。研修にあたっては講義と実技を織り交ぜ、わかりやすく、そして楽しく学ぶことはもとより、現地で有効な活動がなされるよう知識やノウハウだけの提供に終わらず、人を動かす「熱き情熱」もあわせて伝えています。



発酵菌の培養

コンポストのノウハウを指導



コンポスト化容器と市民の皆さん
(フィリピン)



熱心に説明に聞き入る市民
(マレーシア)

▶ CBKプロジェクトにおける地元住民向けの職業訓練 他

フィリピン ルソン島CBKプロジェクトは、カリラヤ(一般水力、2.26万kW)・ボトカン(一般水力、2.08万kW)・カラヤン(揚水、68.46万kW)の3発電所からなる、総出力72.8万kWのプロジェクトです。発電した電力をフィリピン国営電力公社に売電するだけでなく、カラヤン発電所については、同国唯一の揚水発電所であることから、電圧、周波数調整等でも重要な役割を果たしています。

同プロジェクトを運営するCBKパワー社では地域貢献の一環として、学生に対する奨学金制度や学校教員の能力向上プログラムをはじめとした公共教育支援プログラム、政府のサポートの不足した地域に対する公共衛生支援プログラム、また、地域の人々向けの雇用機会の増大を実現するための職業訓練等を実施しています。

▶ 途上国へのコンポスト技術研修～情熱とともに～

(株)ジェイペックでは、JICA海外研修員および青年海外協力隊員等を対象としてコンポスト化技術研修を行っています。これはインドネシアで培った技術が、発展途上国共通のゴミ問題解決に有効な手法として国内外で高く評価されたもので、研修受入国は35カ国以上にもなりま

中国の大学で客員教授として教壇に立つ

私は、中国陝西省西安にある陝西師範大学で、客員教授として教壇に立っています。

2012年度は「環境とコミュニケーション」、2013年度は「マネジメント論」をテーマに日本語学科の学生を対象に年間8回程度の講義を行いました。講義は、一方的な知識の伝授ではなく、ダイアログ(対話)を重視しています。

また、一連の講義では、私のほかにも中国国内で活動されているJICAや環境NPOの方々も講師としてお招きし、テーマに沿って幅広い角度から話題を提供していただいています。これらの講義を通じて、中国の次世代を担う若者たちが、新しい概念を学び、特に環境問題に対するGlobal Thinking Local Actionの重要性に気づき、環境保護への意識が高まることを期待しています。



講義教室にて(左手前が本人)



学生と西安城壁散歩(最後列中央が本人)

捷帕瓦電源開発諮詢有限公司 西安分公司総経理
(現 水力発電部付 一般財団法人水源環境センター出向) **とばせ たかおみ**
鳥羽瀬 孝臣